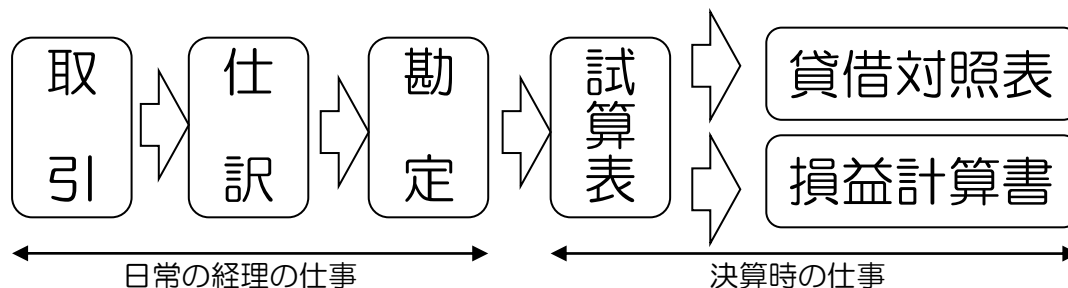


第3回 簿記の世界をのぞいてみよう！（I）

<要 点 整 理>

1. 簿記の流れ

- 簿記はどのように行われるのか、簿記の流れを示すと下図のようになります。



※今回のレポートでは、貸借対照表と損益計算書について見ていきます。

2. 貸借対照表

- 以前のレポートで、残高の状況を1つの表にまとめたものを貸借対照表と言いましたが、もう少しイメージしやすい言葉に言い換えると、「今、会社にどれくらいのお金が残っていて、どれくらいの商品があり、どの程度借金があるのかを明らかにしてくれる表」が貸借対照表なのです。
- 貸借対照表は、**資産**、**負債**、**純資産（資本）**の3つから構成されていて、下図のような形で表されます。

貸借対照表			
資産	×××	負債	×××
	/	純資産（資本）	×××
	×××		×××

※「×××」は金額を表している。

- 資産**とは、簡単に言うと、売ればお金になるもののことです。具体的には、商品や土地、建物などが挙げられます。また、現金や銀行の預金なども資産として扱われます。
- 負債**とは、簡単に言うと、借金のことをいい、広い意味でお金を返さなければならないものすべてが負債となります。
- 純資産（資本）**とは、簡単に言うと、商売の元手のことです。元手とは、事業などを始めようとする際に必要な金銭をいいます。

（次ページへ続く）

- そして、貸借対照表の大事なポイントは、貸借対照表の左側の合計と右側の合計が等しくなるという点です。これは、右側〔負債と資本（純資産）〕がどこからお金を持ってきたのかを表し、左側〔資産〕がそのお金をどのように使ったのかを表しているのです。必然的に等しくなるのです。ただ、今の段階では、貸借対照表の左側の合計と右側の合計が等しくなるという点を押さえていれば十分です。

3. 損益計算書

- 以前のレポートで、やりくりの状況を1つの表にまとめたものを損益計算書と云いましたが、もう少しイメージしやすい言葉に言い換えると、「この一年間でどれくらい儲かったのか、あるいは損をしたのかを明らかにする表」が損益計算書なのです。
- 損益計算書は、**収益**と**費用**の2つから構成されていて、下図のような形で表されます。

損益計算書			
費用	×××	収益	×××
利益	×××		/
	×××		×××

もし、赤字の場合は…

損益計算書			
費用	×××	収益	×××
	/	損失	×××
	×××		×××

※「×××」は金額を表している。

- 収益**とは、簡単に言うと、売上などの儲けのことです。売上のほかには、受取利息なども収益に含まれます。ちなみに、受取利息とは、銀行にお金を預けておくともらうことができる利息のことです。
- 費用**とは、簡単に言うと、一般的に言われている経費のことです。具体的には、家賃や給料などが挙げられます。
- そして、損益計算書の大事なポイントは、損益計算書の左側の合計と右側の合計が等しくなるという点です。これは、収益と費用を比較して、大きい金額から小さい金額を引いて、その差額を小さい金額のほうの下に記入するため、必然的に等しくなるのです。ただ、今の段階では、損益計算書の左側の合計と右側の合計が等しくなるという点を押さえていれば十分です。